

(様式 1)

令和 3 年 5 月 10 日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立魚津高等学校
校長 田 中 宏 育

令和 3 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「明るい協力、撓まぬ勉強」のもと、「高い知性」「豊かな情操」「強い身体」を教育目標として掲げ、その達成のために次の三点を基本方針としている。

- ・目標と計画を持って、自主的に学習する態度を伸ばす。
- ・集団生活を通して、社会性を伸ばし、品性ある人格形成に努める。
- ・健康・体力を自ら向上させる生活態度を育成する。

2 学校の特色

本校は、一昨年創立 120 年を迎えた普通科単独校である。平成 23 年度には約 40 年続いた理数科の募集が停止されたが、同年度入学生より新たに「進路別講座制（進路に応じた多展開授業）」を導入し、特色ある教育活動を実施している。さらに、平成 28 年度より自己発信力やコミュニケーション能力の伸長を目的として、希望者によるアメリカ合衆国での海外研修を開始し、グローバル人材の育成を図っている。

入学する生徒の大部分は新川地区の出身者であり、ほぼ全員が 4 年制大学への進学を希望している。その進学希望を叶えられるようにと、保護者はもとより、新川地区の拠点校として本校に対する地域社会からの期待も大きい。また、伝統的に「文武両道」の精神を支柱とし、教科学習・課外活動・学校行事の継続的かつ計画的な実施を図り、人格の陶冶と進路目標の実現を目指している。

3 学校の現状と課題

生徒のほぼ全員が大学への進学を希望しているため、その実現に向けて教職員は教科指導や進路指導の研究・改善に不断の努力を積み重ねている。特に生徒の日常生活と学習面や進路面が密接に結び付いていることから、丁寧な個別面接指導を計画的に実施している。

また、生徒の自主性を保障する生徒会活動・部活動等や生徒希望選択研修（2 年次）を通して、生徒自身が社会的に自立した行動をし、自己実現に向けて絶え間なく努力していけるよう積極的な支援を行ってきた。

以上の点を踏まえ、「進路指導方針の理念の共有」と「魚津高校らしい指導の継承」を核とし、本校の現状・実践とそれに対する本校教職員の問題意識の実態に即して、今年度の課題として次の 6 点を設定した。

- ①授業力向上につながる研修機会の充実及び教育課程における各教科の適正な編成について
- ②規範意識の向上と自他の生命の尊重及び安全に生活できる生徒の育成について
- ③高い進路目標を掲げる生徒を早期から育成していくための学年別方策等の充実について
- ④生徒会活動や部活動等を通して自主的・自律的な行動ができる生徒の育成について
- ⑤読書の必要性・有効性を理解させるための図書館のさまざまな取り組みの活性化について
- ⑥「生徒希望選択研修」におけるキャリア教育的側面を考慮しつつその適正化を図る改善について

生徒の優れた資質をさらに伸ばすために、引き続き学校課題を「学習意欲の高揚と適切な進路指導」とし、個々の生徒が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう指導方法を研究するとともに、面接指導や学年行事等との有機的連携を行う。さらに「総合的な探究の時間」を核とした探究活動の実施についても全教職員で研修を深め内容の充実を図る。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目 標・方 針、及 び 計 画	
1	学習活動 重点 1 ①②	目標	①教育目標に掲げる、「高い知性」、「豊かな情操」、「強い身体」を目指した教育課程を展開する。生徒の進路志望動向や大学入試制度の動向を踏まえて、各教科と十分連携を取りながら、生徒の意欲を喚起するような教育課程とする。 ②学習指導要領により各教科・科目の目標を明確に把握し、各教科間の密接な連携を図りながら、生徒の能力・適性・進路の実態に即した適切な指導を行い、基礎学力の充実を期するとともに、自主的・自立的態度と学習習慣の定着と育成を図る。
		計画	①ほぼ全員が進学志望である実態に応じ、 教育課程の精選と効率化 に努める。2年次より文・理の類型を選択するが、教科内容や、単位数はいずれも適するものとなるように配慮する。 ②主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程の改善を図り、 ICT 機器を積極的に活用するなど、わかりやすく、学習意欲が高まる授業 を研究する。 ③生活状況調査を実施し、個々の生徒の実態を把握・分析し、学年・教科の教員間の共有を図る。また、面接などをとおして望ましい学習習慣が定着するよう指導し改善を行う。 ④国語、数学、英語においては、多展開授業を実施し、その効果が出るように教科部会を定期的に開催し研究する。
2	学校生活 重点 2 ②④	目標	①基本的生活習慣を確立させ、自主自律の精神や向上心を育成する。 ②進んで公共のために行動できる態度を育成するために、社会性の伸長を図り、社会の一員としての自己を自覚させる。 ③個人面接や教育相談を充実させ、自己の在り方・生き方など生徒の自己形成への努力を支援する。 ④自己の発育や健康状態について正しく理解し、健康的な生活を営むための能力や態度を身につけさせる。
		計画	①登校指導や遅刻調査を通して、基本的生活習慣の確立の支援に努める。 ②学年集会や HR 活動を通して、 校則遵守など規範意識の向上を目指す 。 ③自転車鍵かけ運動やさわやか運動などの主体的活動を通して、社会的モラルや責任感を向上させる力の育成に努める。 ④交通安全教室・防犯教室・薬物乱用防止教室、スマホ・携帯安全利用教室を実施し、 自他の生命を尊重し安全に生活する態度の育成に努める 。 ⑤教師と保護者が連携を密にして、生徒の生活実態や学校での状況等を把握し、生徒が抱える悩みを早期に発見しその対応に努める。 ⑥組織的な教育相談の効果的活用を図るため、研修の機会を持ち、教育相談スキルの向上を図る。 ⑦健康診断、及びその結果に基づく事後指導の徹底を図る。 ⑧疾病のある生徒に対し、健康相談の充実と保健指導を実践する。
3	進路支援 重点 3 ①②	目標	①人間形成に努めるとともに、生徒一人一人に自己のあり方・生き方を考えさせる進路指導を行い、積極的に社会と関わっていくことができる人間力の育成を図る。 ②生徒一人一人の進路志望の実現を図る。
		計画	①生活指導を基本とし、自発的・自律的に学習する力を養うために 3年間を見通した進路指導計画を作成 し、実施する。 ②学習状況の把握を目的とした 教科担当者を交えた学年検討会を開き、学年及び全教師集団による進路指導体制を確立 する。 ③1 学年では「新入生指導」・「先輩に学ぶ会」・「進路探究」、2 学年では「生徒希望選択研修」など進路別講座制に伴う分野別研修を通して進路意識の高揚を図る。

			④各学年で進路を考えさせる効果的な進路講演会を実施する。また、適時適切な進路情報を提供しながら、自己の学力を把握させ、適切な目標を設定させることで学習意欲を高める。 ⑤面接指導を通して、生徒との信頼関係を深め、学習習慣を確立させるとともに、効果的な進路相談を行う。また、保護者との連携を密にする。 ⑥1、2学年では進路目標を実現するために必要な基礎学力を十分に定着させる。そのために十分な家庭学習時間を確保させる。3学年では明確な目標を持たせ意欲的に学習に取り組ませながら、自己の目標が達成できるように、効果的な指導を行う。
4	特別活動 重点4 ①③	目標	①HR活動、生徒会活動、部活動などの様々な活動を通して、明るい校風づくり、各自の役割を遂行する態度の育成、健全な人間関係の育成を目指す。自主的・自律的な生活態度及び生活習慣を身につけさせ、社会人としての資質を育てる。 ②豊かな教養と情操の育成を目指して生徒の読書意識を高め、積極的な図書館利用の促進を図る。 ③校内環境の美化意識の向上に向け、自ら環境整備、美化に努める態度の育成を図る。
		計画	①学校行事においては、<u>行事内容の改善や運営方法の工夫を生徒主体で行うことができるよう</u>に、リーダーを育成し生徒会を組織する。 ②HR活動、生徒会活動、部活動においては、生徒が自主的・自律的な活動を行い、自らの特性や社会性を伸ばせるように、適切な指導助言をする。 ③保健委員会の活動をととして、校内の環境美化に努め、<u>生徒の環境や衛生意識の向上につながるような指導助言</u>を行う。
5	その他 重点5 ①④	目標	①図書の貸し出し冊数を増加させる。 ②生徒希望選択研修を実現させる。
		計画	①図書館オリエンテーションや、図書館イベント、広報活動を通して <u>読書の必要性和有効性を積極的に訴え、読書の促進</u>を図る。 ②蔵書および資料の充実を図るとともに、図書に関する情報を常時発信し、生徒や教職員の読書への関心を高める。 ③教科の授業、「総合的な探究の時間」、ホームルームを活用して、読書意欲の向上と読書習慣の定着を図る。 ④生徒希望選択研修において、<u>協力機関との連携を図りながら生徒の進路選択の一助となる研修を実施</u>する。 ⑤各研修についてのまとめ集を作成するとともに、学年全体に対してプレゼンテーションを行うなど発表の機会を設ける。